

平成22年度事業報告書

はじめに

I. 公益社団法人の認定

現在我が国では、平成20年12月1日に公益法人制度改革関連3法が施行され、公益法人制度改革が進められているが、当協会は平成22年3月19日付で公益社団法人の認定を受けた。

当協会は昭和37年創立以来、生涯スポーツと言われるゴルフの普及振興を事業目的に掲げ、国民の健康の保持増進、余暇活動の充実等豊かな国民生活の実現への寄与を目的として活動してきた。今般の認定に際しては、今後も協会創立精神であるゴルフの普及振興を引継ぎ、公益社団法人として公益目的事業を通じて、民の公益への積極的な参画により、社会的責任を果たすべく全力を傾注したいと考えている。

また、公益社団法人認定を機に、協会名称を平成22年4月1日付で「日本パブリックゴルフ場事業協会」から、平成6年社団法人格取得前の「日本パブリックゴルフ協会」に復帰改称し新たにスタートした。

II. 事業活動の概況

当協会は創立(昭和37年3月)以来一貫して、生涯スポーツであるゴルフの普及振興を通じて、国民の健康の保持増進、余暇活動の充実、青少年の健全な育成等豊かな国民生活の形成に寄与することを目的として活動してきた。

1. 事業活動は下記事業を中心に活動している。

- (1) ゴルフ競技会の開催、並びにゴルフの普及振興のための諸施策の推進
- (2) ゴルフに関する調査・研究、セミナー・研修会の開催
- (3) 公平な統一ハンディキャップの普及振興
- (4) 助成金事業

2. 主たる事業である競技会開催事業の平成22年度の概況は、

- (1) 3大メイン競技のスクラッチ競技、「パブリック選手権、シニア選手権、ミッドアマ選手権」の参加者数は17,876名(前年度比▲624名、▲3.4%)であった。
- (2) アンダーハンディ競技「PGSスポンサー杯、PGSハンディ杯、PGSドリーム・エイジゴルフ大会、PGS西日本月例杯、PGS中部日本月例杯(みんなであきうき旅ゴルフ)、PGS東日本クラブ対抗戦、PGS東日本プロ・アマチャレンジ」は19,059名(前年度比▲517名、▲2.6%)であった。
- (3) スクラッチ及びアンダーハンディ競技合計では、36,935名(前年度比▲1,141名、▲3.0%)の参加を得た。多数のアマチュアゴルファーの参加に深く感謝するとともに、当協会への期待と激励の大きさと受け止め、公益社団法人認定を機に、今後ますます充実した競技会の実現に向けて努力したいと考えている。

III. 会議

1. 通常社員総会

平成22年度通常社員総会は、平成22年6月14日八重洲富士屋ホテル(東京都中央区八重洲2-

9-1)にて開催し、下記事項が議決承認された。

(審議事項)

第1号議案 平成21年度事業報告書及び収支計算書及び財務諸表(案)の件

第2号議案 役員改選(案)の件

第3号議案 定款一部変更(案)の件

公益社団法人の認定に伴い定款第4条を改正

1. 改正後 定款第4条 (公益目的事業)

2. 改正前 定款第4条 (その他の事業)

(報告事項)

第1号議案 平成22年度事業計画書及び収支予算書(案)の件

2. 理事会

題記会議を下記の通り開催した。

	開催年月日	開催場所
第1回	平成22年 6月14日	八重洲富士屋ホテル
第2回	平成22年 6月14日	八重洲富士屋ホテル
第3回	平成22年 9月 2日	栃木グランドホテル
第4回	平成22年11月11日	メルパルク名古屋
第5回	平成23年 3月17日	メルパルク名古屋

3. 合同委員会

題記会議を下記の通り開催した。

	開催年月日	開催場所
第1回	平成22年 6月14日	八重洲富士屋ホテル
第2回	平成22年 6月14日	八重洲富士屋ホテル
第3回	平成22年 9月 2日	栃木グランドホテル
第4回	平成22年11月11日	メルパルク名古屋
第5回	平成23年 3月17日	メルパルク名古屋

4. 予算編成正副委員長会議

題記会議を下記の通り開催した。

	開催年月日	開催場所
第1回	平成23年 2月15日	メルパルク名古屋

5. 財務委員会

題記会議を下記の通り開催した。

	開催年月日	開催場所
第1回	平成22年 2月26日	ホテル銀座ラフィナート

6. 事業・競技・ハンディキャップ合同委員会

題記会議を下記の通り開催した。

	開催年月日	開催場所
第1回	平成22年 8月26日	メルパルク名古屋

7. スポンサー会議

題記会議を下記の通り開催した。

	開催年月日	開催場所
第1回	平成22年10月14日	コート・ペール徳島ゴルフクラブ

IV. 監査

平成22年5月31日 平成21年度決算報告書の監査実施(於:協会事務局)

V. 会員数

1. 平成23年3月31日現在の会員数

(1) 正会員(社員) : 89団体

東日本地区	中部日本地区	西日本地区	北海道・青森地区
32	11	41	5

(2) 賛助会員 : 6団体

2. 平成22年度会員入退会の状況

(1) 入会正会員(社員) : 2団体

東日本地区	西日本地区
鹿島南蓼科ゴルフコース	紫香楽国際カントリークラブ

(2) 退会正会員(社員) : 3団体

東日本地区	西日本地区
新潟サンライズゴルフコース 草津高原ゴルフ場	南山カントリークラブ

(3) 賛助会員 : 入退会なし

3. 正会員(社員)及び賛助会員の推移

単位: 団体

年度	正会員(社員)			賛助会員		
	入会	退会	団体数	入会	退会	団体数
平成16年度	5	4	84	0	1	5
平成17年度	3	3	84	0	1	4
平成18年度	4	3	85	1	0	5
平成19年度	8	5	88	0	1	4
平成20年度	2	3	87	1	1	4
平成21年度	4	1	90	2	0	6
平成22年度	2	3	89	0	0	6

4. 正会員(社員)の変動

(1) 運営会社変更

正会員名	新運営会社	旧運営会社
入来城山ゴルフ倶楽部	PGMプロパティーズ2株式会社	PGPアセットホールディングス1 有限会社
ハーモニーズヒルズゴルフクラブ	PGMプロパティーズ2株式会社	イトーピア栃木株式会社
津軽高原ゴルフ場	株式会社津軽高原ゴルフ場	ウインターガーターリゾート株式会社
セントレジャーゴルフクラブ馬頭	日本緑地開発株式会社	株式会社セントレジャー・オペレーションズ
セントレジャーゴルフクラブ水戸	日本緑地開発株式会社	株式会社セントレジャー・オペレーションズ

(2) 正会員名称変更

新会員名	旧会員名
うぐいすの森ゴルフクラブ&ホテル馬頭	セントレジャーゴルフクラブ馬頭
うぐいすの森ゴルフクラブ水戸	セントレジャーゴルフクラブ水戸

5. 正会員(社員)の勧誘活動

当面100正会員を目標に新規正会員の勧誘を推進している。平成22年度は2正会員が入会、3正会員が退会し、年度末現在の正会員(社員)数は89団体である。業界の種々の事情から一進一退の状況にあるが、公益社団法人認定を梃子に、長年の念願である正会員100団体の実現を目指して、今後とも勧誘活動を推進したい。

VI. 創立50周年記念事業

当協会は、本年度創立48年目となるが2年後に50周年と言う記念すべき節目年を迎える。平成21年度第4回理事会(平成22年3月18日開催)において、記念事業として「協会50年史」の編纂を決定し、「年史制作委員会(委員長:藤下総務委員会委員長)」を新設、平成22年度より本格的に着手した。

VII. 主たる事務所及び事務局の構成

1. 主たる事務所

東京都中央区銀座1丁目19番16号 銀座昭和ビル

2. 事務局の構成(平成23年3月31日現在)

職員数 5名

平成22年度事業活動報告

■公益目的事業1. ゴルフ競技会開催事業

I. 概況

当協会はゴルフの普及振興のためにゴルフ競技会開催事業を行っている。競技会の参加資格は
1. アマチュアゴルファーである、2.ハンディキャップは20.0程度以上の方が望ましい、の2点である。言わばアマチュアゴルファーであれば、誰もが日頃の研鑽の腕試しの場として出場できる門戸の開かれた競技会である。

平成22年度の競技別参加者数は下表の通り、3大メイン競技のスクラッチ競技「パブリック選手権、シニア選手権、ミッドアマ選手権」は17,876名(前年度比▲624名、▲3.4%)、アンダーハンディ競技は19,059名(同▲517名、▲2.6%)、合計36,935名(同▲1,141名、▲3.0%)の参加を得た。

II. 開催競技及び平成22年度参加者数

単位:名

競技会(略称)	参加者数
I.スクラッチ競技	
1.第44回 全日本パブリックアマチュアゴルフ選手権競技(パ選)	7,822
2.第10回 全日本女子パブリックアマチュアゴルフ選手権競技(女子パ選)	979
3.第16回 全日本シニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技(シニア)	1,695
4.第16回 全日本女子シニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技(女子シニア)	396
5.第7回 全日本ミッドシニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技(ミッドシニア)	1,008
6.第4回 全日本パブリックミッドアマチュアゴルフ選手権競技(男子ミッドアマ)	5,339
7.第4回 全日本パブリックミッドアマチュアゴルフ選手権競技(女子ミッドアマ)	637
小 計	17,876
II.アンダーハンディ競技	
1.アンダーハンディ競技(予選) : (1)PGS スポンサー杯 (2)PGS ハンディ杯	6,724
2.アンダーハンディ競技(決勝) : (1)ダンロップ杯 (2)ブリヂストン杯 (3)グランドマンズリー	1,155
3.PGSドリーム・エイジゴルフ大会(予選) : (1)個人戦 (2)団体戦	538
4.PGSドリーム・エイジゴルフ大会(決勝) : 個人戦	99
5.PGS西日本月例杯	9,615
6.PGS中部日本月例杯(みんなでうきうき旅ゴルフ)	508
7.PGS東日本クラブ対抗戦	392
8.PGS東日本プロ・アマチャレンジ	28
小 計	19,059
合 計	36,935

III.平成22年度競技の改善点

1.他団体からのシード権付与

平成22年度は、次の団体からシード権が付与された。

(1)新規シード権

北海道ゴルフ連盟	北海道オープンゴルフ選手権予選 1位～10位
東北ゴルフ連盟	・東北女子アマチュアゴルフ選手権 1位 ・東北シニアゴルフ選手権 1位

北海道日刊スポーツ新聞社	<ul style="list-style-type: none"> ・日刊アマ全日本シングルプレーヤーズゴルフ選手権北海道大会 パ選1位・2位 ・日刊アマ全日本レディースゴルフ選手権北海道大会 1位・2位 ・日刊アマ全日本シングルプレーヤーズゴルフ選手権北海道大会 ミッドアマ1位・2位
--------------	---

(2)追加シード権

北海道ゴルフ連盟	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道女子アマチュアゴルフ選手権 2位・3位 ・北海道ミッドアマチュアゴルフ選手権 2位・3位 ・北海道シニアゴルフ選手権 2位・3位
東北ゴルフ連盟	<ul style="list-style-type: none"> ・東北アマチュアゴルフ選手権決勝 ホンクラブメンバー上位2名 ・東北アマチュアゴルフ選手権予選 ホンクラブメンバー上位3～10位 ・東北ミッドアマチュアゴルフ選手権決勝 ホンクラブメンバー上位2名
関東ゴルフ連盟	関東アマチュアゴルフ選手権(競技方式変更) 1)決勝シード :シード権なし 2)ブロック大会(準決勝) :1位 3)予選 :2位以下の9名 但し、他競技で参加資格を持たない上位9名

2.地区決勝(2日間競技の場合)の2日目進出カットオフ廃止

次の選手権競技については2日目進出カットオフを廃止し、2日間36ホールストロークプレーにて実施する。

- (1)パブリック選手権 東日本A・B・C地区決勝
- (2)パブリックミッドアマ選手権(男女両部門) 東日本A・B地区決勝
- (3)パブリック選手権 西日本四国地区決勝

3.地区決勝・全日本における競技成績順位決定方法の変更

従来、タイスコアーの場合マッチングスコアカード方式により競技成績順位を決定してきたが、平成22年度競技よりタイ方式に変更する。なお、表彰順位は従来同様にマッチングスコアカード方式により、該当受賞者1名を決定する。

- (注) 1. 地区決勝・全日本における第1位者がタイスコアーの場合は、従来と同様にホールバイホールのプレーオフにて優勝者を決定する。
2. タイスコアー者の予選・地区決勝通過者の決定、並びにシード選手の決定は、従来と同様にマッチングスコアカード方式にて決定する。なお、この場合繰下げは認めない。

4.表彰順位の変更

平成22年度競技より表彰順位を次の通り変更する。

競技		地区	地区決勝		全日本	
			変更後	従来	変更後	従来
パブリック選手権	男子	東・中部・西日本地区	15位	20位	15位	20位
		北海道・青森地区	3位	5位	—	—
	女子	東・中部・西日本地区	10位	15位	10位	15位
		北海道・青森地区	3位	5位	—	—
シニア選手権	男子	東・中部・西日本地区	10位	20位	10位	20位
		北海道・青森地区	3位	5位	—	—
	女子 ミッドシニア	東・中部・西日本地区	5位	5位	5位	5位
		東・中部・西日本地区	5位	10位	5位	10位

ミッドアマ選手権	男子	東・中部・西日本地区	10位	20位	10位	15位
		北海道・青森地区	3位	5位	—	—
	女子	東・中部・西日本地区	5位	5位	5位	5位

5.PGSスポンサー杯「ブリヂストン杯地区決勝」の新設

従来、PGSスポンサー杯の地区決勝はダンロップ杯のみであったが、平成22年度競技よりブリヂストンスポーツ株式会社(当協会賛助会員)のご協力により、ブリヂストン杯地区決勝(東・中部・西日本地区の3地区にて開催)を新設する。

6.PGSアンダーハンディ競技の入賞条件の変更:東日本地区

次の通り、東日本地区の入賞制限の条件を変更する。

(1)東日本地区

競技開催日前3ヵ月以内にスコアカードの提出が無い場合は、入賞を6位以下に制限する。

(2)中部・西日本地区

従来通り(同6ヶ月以内に提出が無い場合は、入賞を6位以下に制限する)。

7.PGSアンダーハンディ競技予選・地区決勝の上限ハンディキャップの統一

ローハンディキャップ者に対して競技参加機会の一層の提供、並びに地区毎に予選・地区決勝の上限ハンディキャップを統一する。

(1)東日本地区:50.0 (2)中部日本地区:40.0 (3)西日本地区:36.0

8.PGSアンダーハンディ競技のシニア優勝者の表彰廃止

従来、PGSアンダーハンディ競技では優勝者の他に、特別表彰としてシニア優勝者を表彰してきたが平成22年度よりこれを廃止する。

9.PGSダンロップ杯決勝、PGSグランドマンズリーの地区決勝進出率(予選通過率)の緩和

平成22年度競技より、予選からのPGSダンロップ杯決勝、PGSグランドマンズリーへの決勝進出率(予選通過率)を緩和し、地区決勝進出枠を拡大する。

【予選からの地区決勝進出率(予選通過率)】

地区	PGSダンロップ杯決勝	PGSブリヂストン杯決勝	PGSグランドマンズリー
東日本地区	30%及びベストグロ者	50%及びベストグロ者	15%及びベストグロ者
中部日本地区	70%(北陸地区は80%) 及びベストグロ者	70%(北陸地区は80%) 及びベストグロ者	60%(北陸地区は80%) 及びベストグロ者
西日本地区	50%及びベストグロ者	60%及びベストグロ者	30%及びベストグロ者

(注)PGSブリヂストン杯地区決勝は平成22年度より新設

10.東日本地区PGSアンダーハンディ競技の競技方法変更:カーステージ化

平成22年度より、東日本地区のアンダーハンディ競技(PGSスポンサー杯・PGSハンディ杯)は、カーステージ(JGAハンディキャップによる競技クラスの色分け)により実施する。

【カーステージ(JGAハンディキャップによる競技クラスの色分け)】

クラス	カーステージ	JGAハンディキャップ	備考
1	ブラック	～9.9	参加者数が2クラス合計で59人以下の場合は1クラス開催
	ブルー	10.0～14.9	
2	ホワイト	15.0～19.9	
	レッド	20.0～24.9	
3	ピンク	25.0～50.0	

IV. 競技開催実績

1. 参加資格

競技名	参加資格	年齢資格
I.スクラッチ競技		
1.パ選	1.ハンディキャップ20.0程度以上が望ましい 2.日本ゴルフ協会ゴルフ規則に規定されたアマチュアゴルファー 3.高等学校までに在学の生徒は、学校長等責任者の参加許可証の提出が必要	なし
2.女子パ選		
3.シニア		男子55歳以上
4.女子シニア		女子50歳以上
5.ミッドシニア		男子65歳以上
6.ミッドアマ		男子、女子共30歳以上
II.アンダーハンディ競技		
1.アンダーハンディ競技(予選) (1)PGS スポンサー杯 (2)PGS ハンディ杯	PGS会員でJGA(PGS)ハンディキャップ取得者	なし
2.アンダーハンディ競技(決勝) (1)ダンロップ杯 (2)グランドマンスリー		
3.PGSドリーム・エイジゴルフ大会(予選) (1)個人戦 (2)団体戦	男女とも65歳以上	男女とも65歳以上
4.PGSドリーム・エイジゴルフ大会(決勝) (1)個人戦		
5.PGS西日本月例杯	PGS会員でJGA(PGS)ハンディキャップ取得者 JGA ハンディキャップ取得を目指すアマチュアゴルファー	
6.PGS中部日本月例杯 (みんなであきうき旅ゴルフ)		
7.PGS東日本クラブ対抗戦		
8.PGS東日本プロ・アマチャレンジ	PGS会員でJGA(PGS)ハンディキャップ取得者	

(注)PGS 会員:ハンディキャップの取得を目的とした会員組織で、誰でも会員になれる。

2. 参加申込者数の状況

単位:名

競技	パ選(男子)	パ選(女子)	パ選合計	シニア(男子)	シニア(女子)
平成 22	7,822	979	8,801	1,695	396
平成 21	8,390	1,046	9,436	1,857	435
増減	▲ 568	▲ 67	▲ 635	▲ 162	▲ 39
競技	シニア(ミッドシニア)	シニア合計	ミッドアマ(男子)	ミッドアマ(女子)	ミッドアマ合計
平成 22	1,008	3,099	5,339	637	5,976
平成 21	1,005	3,297	5,125	642	5,767
増減	+ 3	▲ 198	+ 214	▲ 5	+ 209
競技	スクラッチ競技計	UH競技(予選)	UH競技(決勝)	PGSドリーム・エイジ	西日本月例杯
平成 22	17,876	6,724	1,155	637	9,615
平成 21	18,500	7,312	817	1,195	9,357
増減	▲ 624	▲ 588	+ 338	▲ 558	+ 258
競技	中部日本月例杯	東日本クラブ対抗戦	東日本プロ・アマチャレンジ	アンダーハンディ競技計	合計

平成 22	508	392	28	19,059	36,935
平成 21	555	311	29	19,576	38,076
増減	▲ 47	+ 81	▲ 1	▲ 517	▲1,141

(注) 競技名は略称表示。正式競技名は前記1. 競技会(略称)を参照。

3. 競技

◆スクラッチ競技

(1)平成22年度第44回全日本パブリックアマチュアゴルフ選手権競技

平成22年度パブリックアマチュアゴルフ選手権競技の参加者数は、男子7,822名(前年度比▲568名、▲6.8%)、女子979名(同▲67名、▲6.4%)、合計8,801名(同▲635名、▲6.7%)であった。平成18年度まで5年連続して1万名を超える趨勢であったが、世の中の不況を反映してか、残念ながら本年度は9,000名を切る結果となった。

◆競技日程

1. 予選

地 区	東日本	中部日本	西日本	北海道・青森	合 計
予選数	40	15	36	2	93
申込人数(名)	3,627	1,484	2,564	147	7,822

2. 地区決勝

地 区	開催コース	開催日	参加者数(名)
1.東日本 A	うぐいすの森ゴルフクラブ&ホテル馬頭	5/13(木)-14(金)	131
2.東日本 B	丘の公園清里ゴルフコース	5/12(水)-13(木)	165
3.東日本 C	セントレジャーゴルフクラブ市原	5/13(木)-14(金)	155
4.中部日本	正眼寺カントリークラブ	5/19(水)-20(木)	158
5.西日本 関西	武庫ノ台ゴルフコース	5/20(木)-21(金)	147
6.西日本 中国	岡山空港ゴルフコース	5/18(火)-19(水)	143
7.西日本 四国	コート・ベール徳島ゴルフクラブ	5/18(火)-19(水)	124
8.西日本 九州	トム・ワトソンゴルフコース	5/11(火)-12(水)	136
9.北海道・青森	随縁カントリークラブ恵庭コース	8/30(月)-31(火)	89
合 計			1,248

3. 全日本

	開催コース	開催日	参加者数(名)
全日本	森林公園ゴルフ場	6/9(水)-10(木)	182

(2)平成22年度第10回全日本女子パブリックアマチュアゴルフ選手権競技

◆競技日程

1. 予選

地 区	東日本	中部日本	西日本	北海道・青森	合 計
予選数	25	7	23	0	55
申込人数(名)	511	131	319	(18)	979

2. 地区決勝

地 区	開催コース	開催日	参加者数(名)
1.東日本	千葉よみうりカントリークラブ	5/9(日)	183

2.中部日本	正眼寺カントリークラブ	5/12(水)	95
3.西日本	西宮北ゴルフコース	5/13(木)	179
4.北海道・青森	随縁カントリークラブ恵庭コース	8/2(月)	14
合計			471

3. 全日本

	開催コース	開催日	参加者数(名)
全日本	八千代ゴルフクラブ	6/2(水)-3(木)	164

(3)平成22年度第16回全日本シニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技

平成22年度シニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技の参加者数は、シニア男子1,695名(前年度比▲162名、▲8.7%)、シニア女子396名(同▲39名、▲9.0%)、ミッドシニア男子1,008名(同+3名、+0.3%)、合計3,099名(同▲198名、▲6.0%)であった。平成16年度ミッドシニア立上げ時には、シニア3部門(シニア、女子シニア、ミッドシニア)を同日・同会場開催としていたことから地区決勝進出が極めて狭き門であったが、平成17年度以降は選手の要望に応え、シニア男子とシニア女子・ミッドシニアを分離し、地区決勝・全日本の進出率を緩和した。

◆競技日程

1. 予選

地区	東日本	中部日本	西日本	北海道・青森	合計
予選数	18	11	26	1	55
申込人数(名)	681	473	516	25	1,695

2. 地区決勝

地区	開催コース	開催日	参加者数(名)
1.東日本	うぐいすの森ゴルフクラブ水戸	9/16(木)-17(金)	130
2.中部日本	小杉カントリークラブ	9/16(木)-17(金)	135
3.西日本	セントレジャーゴルフクラブ城島高原	9/15(水)-17(木)	130
4.北海道・青森	随縁カントリークラブ恵庭コース	8/2(月)	22
合計			417

3. 全日本

	開催コース	開催日	参加者数(名)
全日本	コート・ベール徳島ゴルフクラブ	10/13(水)-14(木)	155

(4)平成22年度第16回全日本女子シニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技

◆競技日程

1. 予選

地区	東日本	中部日本	西日本	合計
予選数	11	7	11	29
申込人数(名)	193	95	108	396

2. 地区決勝

地区	開催コース	開催日	参加者数(名)
----	-------	-----	---------

1.東日本	三井の森軽井沢カントリー倶楽部	9/29(水)	63
2.中部日本	名古屋広幡ゴルフコース	9/22(水)	39
3.西日本	西神戸ゴルフ場	9/30(木)	45
合計			147

3. 全日本

	開催コース	開催日	参加者数(名)
全日本	那須野ヶ原カントリークラブ	10/20(水)-21(木)	45

(注) 女子シニアとミッドシニア : 地区決勝、全日本は同日同会場で開催。

(5)平成22年度第7回全日本ミッドシニアパブリックゴルフ選手権競技

◆競技日程

1. 予選

地区	東日本	中部日本	西日本	合計
予選数	16	11	23	50
申込人数(名)	324	318	366	1,008

2. 地区決勝

地区	開催コース	開催日	参加者数(名)
1.東日本	三井の森軽井沢カントリー倶楽部	9/29(水)	99
2.中部日本	名古屋広幡ゴルフコース	9/22(水)	129
3.西日本	西神戸ゴルフ場	9/30(木)	140
合計			368

3. 全日本

	開催コース	開催日	参加者数(名)
全日本	那須野ヶ原カントリークラブ	10/20(水)-21(木)	107

(注) 女子シニアとミッドシニア : 地区決勝、全日本は同日同会場で開催。

(6)平成22年度第4回全日本パブリックミッドアマチュアゴルフ選手権競技

最近のパブリック選手権は、中高校生のジュニア選手が上位を独占する傾向が顕著であり、アマチュアゴルファーの最も層が厚いミッド世代の腕前を競う競技として、平成17年度に西日本パブリックミッドアマ選手権競技をスタートした。初年度1,415名、平成18年度1,494名の参加者を得、微増ながら確実な支持を得たので、平成19年度より機も熟したとの判断から、全日本を立ち上げた。平成19年度は地区決勝を実施せず(西日本地区のみ2次予選を開催)予選から全日本という変則的開催となったが、平成20年度より地区決勝を立ち上げた。

平成22年度は、男子の部5,339名(前年度比+214名、+4.2%)、女子の部637名(前年度比▲5名、▲0.8%)、合計5,976名(前年度比+209名、+3.6%)で、順調裡に推移しておりミッド層の競技指向の強さを改めて実感している。

◆競技日程

1. 予選

地区	東日本	中部日本	西日本	北海道・青森	合計
予選数(男子)	31	10	27	3	71
予選数(女子)	16	7	17	—	40

合計	47	17	44	3	111
申込人数(男子)(名)	2,549	1,157	1,558	75	5,339
申込人数(女子)(名)	323	121	193	—	637
合計(名)	2,872	1,278	1,751	75	5,976

2. 地区決勝

地区	開催コース	開催日	参加者数(名)
1.東日本 A	那須野ヶ原カントリークラブ	8/ 3(火)- 4(水)	157
2.東日本 B	山中湖畔 富士ゴルフコース	7/26(月)-27(火)	146
3.中部日本	アリジカントリークラブ花垣コース	7/29(木)-30(金)	154
4.西日本	水島ゴルフリンクス	7/28(水)-29(木)	159
5.北海道・青森	セントレジャーゴルフクラブ札幌	7/30(金)	35

3. 全日本

	開催コース	開催日	参加者数(名)
全日本	よみうりゴルフ ウェストコース	9/8(水)- 9(木)	162

◆アンダーハンディ競技

1.PGS アンダーハンディ競技(予選)

(1)PGS スポンサー杯、(2)PGS ハンディ杯

2.PGS アンダーハンディ競技(決勝)

(1)ダンロップ杯、(2)ブリヂストン杯、(3)グランドマンズリー

平成22年度PGSアンダーハンディ競技は、PGSスポンサー杯80回、PGSハンディ杯27回、合計107回開催した。JGA・PGS ハンディキャップ登録者は約2万4千名で、平成22年度の競技参加者数は、予選は6,724名(前年度比▲588名、▲8.0%)と苦戦したが、決勝は本年度よりブリヂストン杯(3地区決勝)が新設され、1,155名(前年度比+388名、+41.4%)と大幅な増加となった。このところ予選参加者数が減少傾向があるが、来年度は加盟全コースでの開催、またキャロウェイ杯が新設されることもあり、ハンディキャップの普及推進に努め一層の参加者拡大を図りたい。

◆競技日程

1. 予選

予選数		東日本	中部日本	西日本	合計
PGS スポンサー杯	ダンロップ杯	16	7	20	43
	ブリヂストン杯	10	5	9	24
	サンレオ杯	5	4	4	13
PGS ハンディ杯		12	7	8	27
合計		43	23	41	107

2. 予選参加人数

		東日本	中部日本	西日本	合計(名)
PGS スポンサー杯	ダンロップ杯	1,006	549	1,392	2,947
	ブリヂストン杯	765	464	812	2,041
	サンレオ杯	231	216	196	643
PGS ハンディ杯		445	450	198	1,093
合計		2,839	1,836	2,637	6,724

3. 地区決勝

(1)ダンロップ杯

地区	開催コース	開催日	参加者数(名)
1.東日本	八千代ゴルフクラブ	11/4(木)	129
2.中部日本	森林公園ゴルフ場	11/5(金)	123
3.西日本	青野運動公苑アオノゴルフコース	11/5(金)	164
合計			416

(2)ブリヂストン杯

地区	開催コース	開催日	参加者数(名)
1.東日本	ラ・ヴィスタ ゴルフリゾート	平成23/3/3(木)	120
2.中部日本	名古屋港ゴルフ倶楽部(富浜コース)	10/26(火)	86
3.西日本	武庫ノ台ゴルフコース	11/16(火)	137
合計			343

(3)グランドマンズリー

地区	開催コース	開催日	参加者数(名)
1.東日本	下館ゴルフ倶楽部	11/18(木)	96
2.中部日本	セントレジャーゴルフクラブ定光寺	11/17(水)	139
3.西日本	グランドオークプレーヤーズコース	11/26(金)	161
合計			396

3.PGS ドリーム・エイジゴルフ大会

平成20年度までは、高齢者の健康の保持増進の観点からの競技として「いきいきゴルフ300歳大会」〔主催：日本スーパーシニアゴルフ協会(仙台市)〕を、ゴルフ市場活性化委員会(GMAC)の構成メンバーとして後援開催してきた。高齢者の健康の保持増進への寄与は、当協会の事業目的の一つであり、平成21年度より当協会の独自競技として、「PGSドリーム・エイジゴルフ大会」をスタートした。競技は65歳以上のゴルファーを対象とし、当協会独自の「PGSドリーム・エイジハンディキャップ」(年齢にラウンド中の歩数に応じたハンディキャップを加算)による18ホール・ストロークプレーで、ゴルフと健康の保持増進を結びつけたユニークな競技である。

平成22年度は予選22開催、地区決勝を3開催し、参加人数は予選538名、決勝99名、合計637名(前年度比▲558名、▲46.7%)と苦戦した。来年度は競技参加料の値下げ(3,500円⇒2,500円)、競技方法の変更等を工夫し中高齢者向け競技として一層の定着化を目指したい。

◆競技日程

1. 予選

予選開催数	東日本	中部日本	西日本	北海道・青森	合計
1.個人戦	6	7	7	1	21
2.団体戦	1	—	—	—	1
合計	7	7	7	1	22

(1)18ホール・ストロークプレー

(2)PGSドリーム・エイジハンディキャップ方式(年齢+歩行数によるハンディキャップ)により順位を決定

2. 参加人数

単位:名

	東日本	中部日本	西日本	北海道・青森	合計
1.個人戦	215	114	144	14	487
2.団体戦	51	—	—	—	51
合計	266	114	144	14	538

3. 地区決勝

地区	開催コース	開催日	参加者数(名)
1.東日本	八千代ゴルフクラブ	10/28(木)	44
2.中部日本	名古屋広幡ゴルフコース	10/29(金)	25
3.西日本	北神戸ゴルフ場	11/12(金)	30
合計			99

(1)競技方法 :予選と同じ

(参考)PGSドリーム・エイジゴルフ大会チャリティ募金寄贈

平成22年度 PGSドリーム・エイジゴルフ大会のチャリティ募金額は207,183円となった。原則は、予選開催コースが最寄の社会福祉団体等に寄付するが、寄贈先事務局依頼分93,321円は、「日本赤十字社(東京都港区大門 1-1-3)」に寄贈した

4.PGS西日本月例杯

PGS 月例杯はアンダーハンディ競技の充実を図るために、PGS 会員を対象として平成13年度にスタートした。以前は東日本、中部日本を含めて全日本事業であったが、現在は西日本地区のみが開催している。

平成22年度は開催数167回、参加者数9,615名(前年度比+258+2.8%)と増加した。今後一層 JGA ハンディキャップの普及振興に努め、ハンディキャップ取得者の増加によりますます盛況な競技会にしたいと考えている。

	関西地区	中国地区	四国地区	九州地区	合計
開催数	67	46	24	30	167
申込人数(名)	3,131	3,800	1,887	797	9,615

(注)PGS 会員:ハンディキャップの取得を目的とした会員組織で、誰でも会員になれる。

5.PGS中部日本月例杯(みんなでうきうき旅ゴルフ)

平成21年度より、「PGS中部日本月例杯(みんなでうきうき旅ゴルフ)」がスタートした。ゴルファーは自分のゴルフ技量を、公正な同一規定に基づくハンディキャップで正しく示す責任がある。当協会は、わが国唯一の公認ハンディキャップのJGAハンディキャップの普及に努めており、アマチュアゴルファーの証であるJGAハンディキャップの一層の取得推進を目指した競技会である。

平成22年度は予選11開催、並びに決勝を開催し、参加人数は予選508名(決勝47名は23年度競技)と横這い推移(前年度比▲47名、▲8.5%)であった。今後一層 JGA ハンディキャップの普及振興に努め、ハンディキャップ取得者の増加によりますます盛況な競技会を目指したい。

1.予選

(1)開催会場 :中部日本地区会員 :11コース

(2)参加資格 ①アンダーハンディ競技 :PGS会員でJGAハンディキャップの取得者

②ダブルペリア競技 :PGS会員、及びJGAハンディキャップ取得を目指すアマチュアゴルファー

- (3) 競技方法 ①18ホール・ストロークプレー(アンダーハンディ競技)
②ダブルペリア競技

(4) 参加者数

	アンダーハンディ競技		ダブルペリア競技		合計
	男子	女子	男子	女子	
参加人数(名)	249	58	164	37	508

2. 決勝

- (1) 開催日 :平成23年4月23日(金)
 (2) 開催会場 :名古屋広幡ゴルフコース
 (3) 参加資格 :予選通過者、及び特典(多回数参加者)によるシード選手
 (4) 競技方法 :18ホール・ストロークプレー(アンダーハンディ競技)
 (5) 参加者数 :男性 40名、女子 7名、合計 47名

6.PGS東日本クラブ対抗戦

平成21年度より東日本地区の協会競技として新たにスタートした。JGA ハンディキャップの普及振興を目的とした東日本加盟会員コースのクラブ対抗戦で、4ブロック(ABCD)でブロック予選を開催し、各ブロックより男女各2チーム、決勝大会開催クラブより男女2チーム、及び前年度優勝クラブ代表の男女2チームを加えた、合計12チームで決勝大会を開催する。平成22年度は、ブロック大会には合計278名、決勝には114名、合計392名が参加した。

1. ブロック予選

- (1) 参加資格:東日本地区会員コースの何れかで PGS 会員登録をし、JGA ハンディキャップを取得しているアマチュアゴルファー
 (2) 競技方法
 ①18ホールストローク・アンダーハンディ競技(JGA ハンディキャップ)
 ②ハンディキャップの下限 :男子部門20.0、女子部門30.0
 ③順位決定 :男子部門は出場選手の内、上位5名のネットスコア合計による
 女子部門は出場選手の内、上位3名のネットスコア合計による
 (3) 開催日・会場・出場クラブ

ブロック	出場クラブ	ブロック予選	開催日
Aブロック	那須野ヶ原、イーストウッド、うぐいすの森馬頭、ハーモニーヒルズ、TOKYO North Hills、古河、ウィンザーパーク、うぐいすの森水戸	下館ゴルフ倶楽部	9月20日
Bブロック	新玉村、草津高原、前橋、上武、榛名の森、朝霞、妻沼、新潟サンライズ、三井の森	妻沼ゴルフ場	9月22日
Cブロック	市原、市原・柿の木台、セントレジャー千葉、セントレジャー市原、八千代、ラヴィスタ、千葉よみうり	市原ゴルフクラブ	10月8日
Dブロック	昭和の森、清里、小淵沢、富士見高原、篠ノ井、富士グリーンヒル	富士見高原ゴルフコース	10月1日

- (4) ブロック予選代表チーム
 各ブロック2クラブ(1クラブ男子部門8名、女子部門5名)

(注)決勝大会開催コース、前年度優勝クラブが上位2クラブに入賞した場合は、繰り下げて出場資格を付与する。

(5)参加人数

ブロック・開催コース	クラブ数	男子	女子	合計
Aブロック（下館）	6	39	5	44
Bブロック（妻沼）	15	51	35	86
Cブロック（市原）	14	56	35	91
Dブロック（富士見高原）	9	32	25	57
予選計	44	178	100	278
決勝	19	72	42	114
合計	63	250	142	392

2. 決勝大会

- (1)開催会場：富士見高原ゴルフコース(長野県)
- (2)開催日：前夜祭 平成22年10月25日(月)／クラブ対抗戦 平成22年10月26日(火)
- (3)参加資格：①PGS 東日本各ブロック予選の男女各上位2クラブ
②決勝大会開催クラブ、及び前年度優勝クラブより各男女2クラブ
- (4)チーム編成：1クラブ 男子部門8名・女子部門5名
- (5)競技方法：ブロック予選と同様
- (6)参加人数：前掲の通り

7.PGS東日本プロ・アマチャレンジ

平成21年度より東日本地区の協会競技として新たにスタートした。東日本地区開催の PGS アンダーハンディ競技参加の応募者の中より抽選で選ばれた30名のアマチュアゴルファーがシニアプロと一緒にラウンドできるという夢の企画である。平成22年度は応募者41名の中から30名が選ばれ、当日は28名が出場した。

- (1)開催会場：古河ゴルフリンクス(茨城県)
- (2)開催日：平成22年12月9日(木)
- (3)シニアプロ：鷹巣 南雄、長谷川 勝治、横島 由一、佐野 修一、青木 基正
- (4)参加人数：28名
- (5)競技内容：シニアプロ1名と、PGS東日本地区アンダーハンディ競技参加の応募者から抽選にて選ばれた3名が同組でプレーする
- (6)応募方法：東日本地区開催のPGSアンダーハンディ競技に出場し、応募ハガキに競技開催コースの捺印を受けて、捺印数3個を1口として東日本地区連絡協議会事務局に申込み。

(注)1. 申込口数に制限はなし

2. 競技の捺印数は開催競技、開催会場により異なる

3. 応募者多数の場合は抽選により参加者を決定

V. 協会誌「PGSニュース」の発行

当協会主催競技に関して、競技開催案内、年間競技スケジュール、競技の様様、競技成績等を盛り込んだ記録誌として、「PGSニュース」を年2回発行(毎年2月、及び9月)し、競技参加者に対して無償配布している。「PGSニュース」は既に78号を重ね、我が国のパブリック・ゴルフ史としても貴重な資料である。

■公益目的事業2. ゴルフ普及振興事業

I. セミナー・研修事業

本事業は生涯スポーツであるゴルフの普及振興のために、セミナー・研修会を通じてゴルファーの啓蒙に資する事業を実施した。また、一層質の高い競技会の実現を目指して、競技会の運営・競技委員を対象にゴルフ・ルール、コースセッティング方法等、競技会運営に係わる技術向上を目指した研修会を開催した。

1. 平成22年度PGSセミナー

日時	平成22年6月14日(月)	テーマ	アンチエイジング・ゴルフという考え方
場所	八重洲富士屋ホテル	講師	齋藤 真嗣(ニューヨーク州医師)

(参考)最近のPGSセミナー開催実績

年度	テーマ	講師
平成17年度	ゴルフでたどる日米交流史	久保田 誠一 (大妻女子大学比較文学部 講師)
	ゴルフホームドクター制度導入による ゴルフ場活性化事例	大東 将啓 (PGA Dr.ティーチングプロ)
平成18年度	ゴルフ場業界の現状と生き残りの条件	降旗 貞夫 (日本ゴルフ場総合研究所専務理事)
平成19年度	物理学から見たゴルフの楽しさ	八木 一正行(宮城大学教授)
平成20年度	ゴルフのカラダ革命	宮田 トオル(メデイカルケア院長)
平成21年度	ゴルフ場はエコ・パーク	縣 和一 (西日本グリーン研究所所長、 九州大学名誉教授)

2. 平成22年度研修会

(1) グリーンキーパー研修会

日時	平成22年4月2日(金)	テーマ	ベントグリーン全面張替とコース管理
		講師	セントレジャーゴルフクラブ 亀山 内海 伸樹
場所	ゴルフコース小松パブリック	テーマ	2009年度コース管理について
		講師	ゴルフコース小松パブリック 簾 喜泰

(参考)最近の研修会開催実績

年度	テーマ
平成17年度	平成17年度グリーン管理について
	成長抑制剤プリモについて
	猪被害防止対策について
平成18年度	コース人員・資材・経費について
	グリーン管理とコースを中心とした管理
	リンクコースの特性と感知方法
平成19年度	グリーンのオーバーシートについて
	グリーン肥培管理及び今後の方向性
	コース管理業務委託による一般管理
平成20年度	コース・セッティングについて

	これからのゴルフ場のコース管理
	ゴルフコース管理概況とインターシード計画
平成21年度	コースの現状について
	これからのコースメンテナンスの動向について

II. 交流・協力事業

ゴルフ業界を取り巻く環境は先行き厳しいが、ゴルフ市場活性化のために業界諸団体は連携・協力して様々な活動を展開する必要がある。この様な観点から当協会は業界諸団体と連携・協力して、ゴルフ市場の活性化に向けた活動を展開した。

1. 日本ゴルフサミット会議

(1) 2011年第1回日本ゴルフサミット会議

日時	平成23年1月14日(金) 10:00～11:20	内容	2011年活動テーマの決定 1)環境問題への取り組みについて 2)ゴルフ場利用税撤廃運動の継続 3)国家公務員倫理規定における「ゴルフ」記述の削除 4)楽しくゴルフをプレーしていただくためのキャンペーン活動の提唱
場所	ANA インターコンチネンタルホテル東京		

(2) ゴルフ新年会の開催

日時 平成23年1月14日(金) 11:30～15:00

場所 ANA インターコンチネンタルホテル東京

(3) 日本ゴルフサミット会議運営会議に参加(隔月開催)

2. ゴルフ市場活性化委員会(GMAC)

(1) 当協会はゴルフ市場活性化委員会(GMAC)の構成メンバーとして、「はじめよう」「続けよう」「もっとゴルフを」をスローガンにゴルフ業界の活性化に向けた活動をしている。平成22年度はテーマ「はじめようゴルフを」として「スクランブルゴルフの普及」、「もっとゴルフを」として「経済産業大臣杯全国チーム対抗戦」を各団体と連携して活動した。

(2) 定例委員会への参加(毎月1回定例会議)

(3) ゴルフ市場活性化セミナーへの参画

3. NPO日本ジュニアゴルファー育成協議会(JGC)

日本ジュニアゴルファー育成協議会は、「ゴルフをツールとした子どもたちの健全育成」を原点に活動をしている。本業界の実情は、業界関係者は業界を挙げて市場活性化に向けた活動をする必要があるが、同協議会のジュニアゴルファーの育成は青少年の健全な育成に加え、ゴルフ業界の裾野拡大が期待でき首肯できる。当協会は同協議会の構成メンバーとして、ジュニアゴルファーの育成に連携して活動した。

4. ジャパンゴルフフェア2011の後援・ブース出展

(社)日本ゴルフ用品協会主催の第45回ジャパンゴルフフェア2011は、平成23年2月18日(金)～2月20日(日)の3日間東京有明ビッグサイト東京国際展示場において開催されたが、当協会はこの後援すると共にブースを出展し、当協会の事業活動のPRを実施した。

Ⅲ. 調査・研究事業

当事業は、ゴルフの普及振興のためにゴルフに関する各種調査・研究事業を実施した。

1. 平成22年度調査・研究事業「ゴルフのプレー頻度がゴルファーの健康や生活に及ぼす影響」
当協会は、生涯スポーツであるゴルフの普及振興を目的とし、国民の健康保持増進、余暇活動の充実などに寄与するための事業を展開している。最大の事業は競技会の開催で、アマチュアゴルファーに数多くのプレー機会を提供している。スクラッチ競技、アンダーハンディ競技に年間約4万人が参加する中、平成21年度より、シニア層の健康の保持増進に寄与すべく、新規競技「PGSドリーム・エイジゴルフ大会」を立ち上げた。これは、「ゴルフで歩いて健康に」をコンセプトに65歳以上の男女を対象に開催する大会で、年齢にラウンド中の歩数に応じたハンディを加算した独自のハンディキャップ(PGSドリーム・エイジハンディキャップ)を採用する等、ゴルフと健康の保持増進を結びつけたユニークな競技である。

中高年者は生活習慣病やメタボリック・シンドロームへの罹患率が高まる懸念があることから、健康に対する意識が高いと言われている。そんな中高年者に支持されるゴルフが、運動量の豊富なスポーツであることは、平成18年厚生労働省が発表した「健康づくりのための運動指針2006～生活習慣病予防のために～」で示されている。この中で、身体活動量の目標として“週に23エクササイズの活発な身体活動を、その内4エクササイズは活発な運動”を推奨しており、これを歩数に換算すると1日1万歩が目標値であることが具体的に示された。また、同指針でゴルフは速歩、自転車と並ぶ活発な運動(4メッツ)に分類されており、ゴルフ場で1ラウンドを4時間でプレーした場合、待ち時間やカート使用時間を除いた実質運動時間を2時間と想定し、4メッツ×2時間＝8エクササイズの身体活動量があったと算定している。これは、相当に大きな値で、ゴルフの運動量の豊富さを再確認するとともに、定期的にゴルフをプレーすることで、生活習慣病の改善に大きな効果をもたらすことが期待できる数値である。

こうした観点から、ゴルフと健康には密接な関係があるとの考えに基づき「PGSドリーム・エイジゴルフ大会」を新設したが、これまでゴルフと健康に関する調査・研究が少なかったことから、今回ゴルフが健康に与える具体的な効果を立証すべく、静岡理科大学 富田准教授に調査を依頼、実施した。調査・研究結果については巻末の報告書をご参照願いたい。

2. 平成22年度「シニアパブリック選手権」参加者アンケートの実施

- (1)シニア選手権競技参加者に対しアンケートを実施、その結果を集計・分析し一層質の高い競技会の実現に資したいと考えている。また結果を当協会ホームページ、協会誌「PGS ニュース」に公開し、アマチュアゴルファーに支持される一層質の高い競技会の実現、ゴルファーの啓蒙に寄与したいと考えている。

- (2)アンケート結果 : 主なポイントと結果

- ①初参加者の参加動機を把握、分析し、今後の広報・集客活動に活かす。

「友人・家族の誘い」50%、「コースからのDM」32%、「協会からのDM」11%で合計93%。
従来の前年度参加者、並びにPGS会員を対象に送付していた「競技案内」をより広く送付することが、新規参加者を増大する有効な手段であると考えられる。各会員コースの「友の会」会員まで競技案内の送付対象者を広げることを検討すべきと考えている。

- ②平成23年度より、女子シニア、ミッドシニア選手権競技の地区決勝が2日間競技に移行するが、選手の参加意欲を調査、傾向を把握する。2日間競技となることに対し9割は「参加する」、1割が「参加しない」との結果となった。

- ③参加者の全日本開催会場の希望を調査し、今後の会場決定の参考とする。

「近隣のコース」41%、次いで「有名なコース」20%、「観光地にあるコース」16%。また高齢者になるに従い「プレー代が安いコース」を希望しており、今後の会場選定には「アクセスの良さ」、並びに「プレー代」について特別な配慮が必要であると考えている。

(参考)過去の調査・研究実績

年度	調査・研究内容
平成19年度	1. パブリック選手権競技参加者アンケート 2. パブリックゴルフ場のジュニアゴルファーの受入態勢調査
平成20年度	1. シニア選手権競技参加者アンケート
平成21年度	1. シニアパブリック選手権競技参加者アンケート 2. PGSDリーム・エイジゴルフ大会参加者アンケート

IV. その他のゴルフ普及振興事業

斯業界の長期的展望は少子高齢化の加速や人口減少から、市場規模は縮小化の方向にあり、引き続き経営環境は厳しいと予想される。この様な状況下、ゴルフ業界は一層連携を強化し、新規ゴルファーの育成、需要創出が喫緊の課題であり、当協会もゴルフ市場の活性化に向けゴルファーの底辺拡大施策等様々な取組みを推進した。

1. ジュニアゴルファー育成の取り組み

NPO日本ジュニアゴルファー育成協議会(JGC)の活動目的のジュニアゴルファーの育成は青少年の健全な育成に資するものであり、斯業界にとってはゴルファーの裾野拡大の観点より重要な課題である。ジュニアゴルファーの育成は業界団体が業界を挙げて取り組み、市場活性化に向けた活動を連携する必要がある。当協会は同協議会の構成メンバーとしてジュニアゴルファーの育成に連携して活動した。

2. スクランブルゴルフの推進 :女性・ビギナーゴルファーの育成

斯業界の長期的展望は前記の通り厳しいが、この様な状況下女性・ビギナーゴルファーの育成は、需要創出策として喫緊の課題であり活性化に向け様々な取組みを推進した。

ゴルフ市場活性化委員会(GMAC)が提唱する、「はじめようゴルフを」のテーマの下に推奨する「スクランブルゴルフ」は女性・ビギナーゴルファーのラウンド初体験を促進するシステムとして有効と考えている。ゴルフ市場活性化委員会(GMAC)は活動目標の策定、並びにGMAC仕様のスクランブルを構築すべく活動しているが、当協会もゴルフ市場活性化委員会(GMAC)の構成メンバーとして連携して活動した。

3. 健康保持増進に資するための中高齢者ゴルファーの掘り起こし

平成20年度までは、中高齢者の健康の保持増進の観点からの競技として「いきいきゴルフ300歳大会」[主催:日本スーパーシニアゴルフ協会(仙台市)]を、ゴルフ市場活性化委員会(GMAC)の構成メンバーとして後援開催してきた。中高齢者の健康の保持増進への寄与は、当協会の事業目的の一つであり、平成21年度より当協会の独自競技として、「PGSDリーム・エイジゴルフ大会」をスタートした。競技は65歳以上のゴルファーを対象とし、当協会独自の「PGSDリーム・エイジハンディキャップ」(年齢にラウンド中の歩数に応じたハンディキャップを加算)による、18ホール・ストロークプレーで、ゴルフと健康の保持増進を結びつけたユニークな競技である。

4. 他団体との協賛・後援事業

- (1) 社団法人日本ゴルフ用品協会に対し後援 :第45回ジャパンゴルフフェア2011
- (2) 日本ゴルフサミット会議に対し協賛 :2010年ゴルフ新年会
- (3) 他団体競技の後援

競技名	主催者
32回 ALL KANSAI テレビ アマチュアゴルフ選手権	(株)サンテレビジョン
第2回ウッドフレンズレディース アマ・プロゴルフ選手権	森林公園ゴルフ場
日刊アマゴルフ全日本シングルプレーヤーズゴルフ選手権	北海道日刊スポーツ新聞社
第26回・第27回アオノジュニアゴルフ大会	青野運動公苑アオノゴルフコース

第17回・第18回すきっぷ 21:アオノ親子ゴルフ大会	青野運動公苑アオノゴルフコース
日刊アマゴルフ2011 全日本シングルプレーヤーズゴルフ選手権東日本大会	日刊スポーツ新聞社東京本社
日刊アマゴルフ2011 全日本シングルプレーヤーズゴルフ選手権北海道大会 全日本レディースゴルフ選手権北海道大会	北海道日刊スポーツ新聞社
2011年近畿オープンゴルフ選手権	サンケイスポーツ

■収益事業 ハンディキャップ普及振興事業

I. 公平な統一ハンディキャップの普及振興事業

1. 自分のゴルフ技量を正しく示すことはゴルファーの責任

ゴルフは年齢・性別・技量の異なる者同士でも対等に楽しめるスポーツであるが、それは公平な統一ハンディキャップ(JGAハンディキャップ:国際ゴルフ・ルールに基づき(財)日本ゴルフ協会が発給)が前提条件である。ゴルファーは自分のゴルフ技量を公式な同一規定に基づくハンディキャップで正しく示す責任があるが、JGAハンディキャップは日本で唯一の公認ハンディキャップであり、当協会は日本全国のアマチュアゴルファーに対して、ゴルファーの証とも言えるJGAハンディキャップの普及振興を推進している。また、公平な統一ハンディキャップの普及振興は、競技主催団体にとってはアンダーハンディ競技会の適正、公正な運営の前提条件でもある。

当協会のJGAハンディキャップ取得者は約2万4千人で、高額なゴルフ会員権の取得を必要とせず、誰でも低廉な登録料でPGS会員になることにより、手軽に取得できる点から多くのアマチュアゴルファーの支持を得ている。

2. ハンディキャップ取得者の推移

単位:名

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
JGA ハンディキャップ	20,262	25,451	23,471	24,663	24,974
PGS ハンディキャップ	8,138	4,714	2,913	2,413	520
合計	28,400	30,165	26,384	27,076	25,494

3. JGA ハンディキャップ(J-sys)導入状況

平成18年4月に、特別委員会「J-sys検討委員会」を立上げ、JGA ハンディキャップ(J-sys)の普及推進に努めてきたが、この間の進捗状況は下記の通り。

(平成18年4月現在)

	東	中部	西	合計
JGA HDCP	31	10	21	62
PGS HDCP	2	1	21	24
合計	33	11	42	84

⇒

(平成23年3月現在)

単位:コース

	東	中部	西	北・青	合計
JGA HDCP	31	11	40	5	87
PGS HDCP	1	0	1	0	2
合計	32	11	41	5	89

II. JGAコースレート査定事業

公平な統一ハンディキャップであるJGAハンディキャップの普及振興のためには、その前提としてゴルフ場のコースレーティングが正確に査定されている必要がある。当協会はコースレート査定を管轄する(財)日本ゴルフ協会(JGA)に対してコースレート査定を希望する会員パブリックゴルフ場の依頼に基づき、同協会への申請窓口として機能している。平成22年度は、次の6コースでコース

レート査定を実施した。

東日本地区	西日本地区
1.イーストウッドカントリー倶楽部 2.TOSHIN TOKYO North Hills Golf Course 3.千葉よみうりカントリークラブ 4.紫カントリークラブ あやめコース	1.紫香楽国際カントリークラブ 2.入来城山ゴルフ倶楽部

■その他事業 助成金事業

本事業はゴルフの普及振興を図るために、ジュニアゴルファーの育成を目的に活動する業界2団体に対して、助成金事業を実施した。

1. NPO日本ジュニアゴルファー育成協議会(JGC) :助成金 500千円
当協議会はゴルフをツールに児童・青少年の健全な育成を目的に活動している。ジュニアゴルファーの育成は青少年の健全育成、並びにゴルファーの底辺拡大の観点から首肯でき、同協議会の活動目的に賛同して助成金事業を実施し活動をバックアップした。
2. 日本高等学校ゴルフ連盟 :助成金 500千円
当連盟は高等学校教育の一環であるクラブ活動を通じて、心身を鍛え、社会生活を営むに相応しい生徒を育てること、ゴルフ界の健全な発展へ寄与することを目的に活動している。同連盟の活動目的に賛同して助成金事業を実施した。

む す び

I.公益社団法人へ移行

1. 移行認定

現在、我が国では平成20年12月に公益法人制度改革関連3法が施行され、新公益法人制度への移行が進められているが、当協会は昨年3月19日に公益社団法人の認定を受けた。

当協会は昭和37年創立以来、生涯スポーツと言われるゴルフの普及振興を事業目的に掲げ、国民の健康の保持増進、余暇活動の充実等豊かな国民生活の実現への寄与を目的として活動してきた。今般の認定に際しては、協会創立精神であるゴルフの普及振興を引継ぎ、公益社団法人として公益目的事業を通じて、民の公益への積極的な参画により社会的責任を果たすべく全力を傾注したいと考えている。

また、公益法人の認定を機に、法人名称を平成22年4月1日付にて「社団法人日本パブリックゴルフ場事業協会」から、平成6年社団法人格取得以前の「日本パブリックゴルフ協会」に復帰改称し新たにスタートした。

2. 事業概要・体系

当協会の事業活動は、創立以来一貫してスポーツ振興の目的の下、国民的スポーツであるゴルフの普及振興を通じて、国民の健康の保持増進、余暇活動の充実等、豊かな国民生活の実現に寄与することである。ゴルフの普及振興のためメイン事業として、パブリック選手権競技をはじめとしたゴルフ競技会を開催しているが、移行申請に際して事業体系を次の通り整理した。

(1)公益目的事業

- ①国民の健康の保持増進、余暇活動の充実、青少年の健全な育成等豊かな国民生活の実現

への寄与を目的とし、アマチュアゴルファーのためのゴルフ競技会を開催して、生涯スポーツであるゴルフの普及振興を図る事業

- ②国民の健康の保持増進、余暇活動の充実、青少年の健全な育成等豊かな国民生活の実現への寄与を目的とし、ゴルフに関するセミナー・研修、交流・協力、調査・研究事業を行い、生涯スポーツであるゴルフの普及振興を図る事業

(2)収益事業

アマチュアゴルファーがゴルフを楽しむための前提となる公平な統一ハンディキャップの普及振興事業、及びその前提となるコースレート査定事業

(3)その他事業

ジュニアゴルファーの育成を目的に活動する業界2団体に対し、その育成を支援する観点から助成する事業

3. 事業の種類

(1)公益目的事業(定款第4条)

- ①ゴルフの普及振興、ゴルフ競技会の開催、並びに技術向上の機会提供事業
- ②ゴルフに関する調査・研究、及びセミナー・研修会の開催事業
- ③ゴルフ関係諸団体との交流、連携を通じてのゴルフ普及振興事業
- ④ゴルフの普及振興のため機関紙、及び学術図書の発行事業

(2)収益事業等(定款第5条)

- ①公平な統一ハンディキャップの普及振興事業
- ②ゴルフ関係諸団体に対する助成金支出事業

【公益社団法人日本パブリックゴルフ協会の事業体系】

【公益目的事業 1】 ゴルフ競技会開催事業	I.スクラッチ競技
	1. 全日本パブリックアマチュアゴルフ選手権競技
	2. 全日本女子パブリックアマチュアゴルフ選手権競技
	3. 全日本シニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技
	4. 全日本女子シニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技
	5. 全日本ミッドシニアパブリックアマチュアゴルフ選手権競技
	6. 全日本パブリックミッドアマチュアゴルフ選手権競技
	II.アンダーハンディ競技
	1.アンダーハンディ競技(予選): (1)PGSスポンサー杯 (2)PGSハンディ杯
	2.アンダーハンディ競技(決勝): (1)ダンロップ杯 (2)ブリヂストン杯 (3)グランドマンズリー
	3. PGSドリーム・エイジゴルフ大会
	4. PGS西日本月例杯
	5. PGS中部日本月例杯 :みんなであきうき旅ゴルフ
	6. PGS東日本クラブ対抗戦
7. PGS東日本プロ・アマチャレンジ	
【公益目的事業 2】 ゴルフ普及振興事業	1. セミナー・研修事業
	2. 交流・協力事業
	3. 調査・研究事業
【収益事業】	1. 公平な統一ハンディキャップの普及振興事業

ハンディキャップ普及振興事業	2. コースレート査定事業
【その他事業】 助成金事業	1. 業界2団体に対する助成金事業

II. ゴルフ業界の環境認識

我が国最大のスポーツ産業であるゴルフ業界の状況は、平成17年度以降全国ゴルフ場利用者数は増加に転じ、この4年間の利用者の増加人数は延べ5,479千人、増加率6.3%となり、漸く最悪期を脱して明るさが見えはじめた様に思われる。

然しながら、長期的展望は少子高齢化の加速や人口減少から、市場規模は縮小化の方向にあり、引き続き経営環境は厳しいと予想される。この様な状況下、当業界においては新規ゴルファーの育成によるゴルファーの底辺拡大、需要創出が喫緊の課題であり、業界団体は一層連携を強化し市場活性化に向けた活動を、展開すべきであると思料される。当協会はアマチュアゴルファーの育成を基軸に、業界の活性化に向けた様々な事業活動を推進したいと考えている。

【最近のゴルフ場利用者数の推移】

年度	利用者数 (千人)	増減 (千人)	同比率 (%)	ゴルフ場数 (数)	1ゴルフ場当たり 利用者数(人)
平成16年度	85,307	▲3,069	▲3.5	2,453	34,777
平成17年度	86,046	739	0.9	2,446	35,178
平成18年度	88,235	2,189	2.5	2,442	36,132
平成19年度	89,020	785	0.9	2,442	36,454
平成20年度	90,786	1,766	2.0	2,442	37,177
平成21年度	91,642	856	0.9	2,445	37,481

(注) 出所: 社団法人日本ゴルフ場事業協会調

IV. 平成22年度事業の回顧と展望

平成22年度競技の概況は、スクラッチ競技の参加者数は17,876名(前年度比▲624名、▲3.4%)、アンダーハンディ競技は19,059名(同▲517名、▲2.6%)、合計36,935名(同▲1,141名、▲3.0%)と大変多くのアマチュアゴルファーの参加を得、改めて選手及び会員各位に対して心から謝意を表したい。

残念ながら参加者数はスクラッチ競技、アンダーハンディ競技共に前年度実績を下回り、特にメイン競技のパ選、またシニアの参加者数が年々減少を辿っており、懸念される処である。但し、スクラッチ競技のミッドアマ選手権は、順調に参加者数が拡大しており、今後更に期待したい。また、公益社団法人移行を機に、今後新たな事業分野等を検討するが、基軸事業はあくまでパブリック選手権である点は今後も不変であり、往年の1万人台の参加者数の復活、更には2、3万人と規模拡大を目指したい。

斯業界の長期的展望は、少子高齢化の加速や人口減少から、市場規模は縮小化の方向にあり更には先般の東日本大震災の影響が加わり、引き続き経営環境は厳しいと予想される。この様な状況下、ゴルフ業界は一層連携を強化し、新規ゴルファーの育成、需要創出が喫緊の課題である。当協会はゴルフが国民スポーツとして支持され、ゴルフを通じて国民の心身の健全な発展、また豊かな人間性の涵養に寄与することを望んでおり、『ゴルフをみんなのスポーツへ』をモットーに、会員一同が一致団結してゴルフ普及振興に寄与すべく、弛まない努力を継続したいと念じている。

以上

平成23年6月

公益社団法人日本パブリックゴルフ協会
会長(代表理事) 浅井光昭



公益社団法人日本パブリックゴルフ協会
平成22年度 調査・研究事業報告書

「ゴルフのプレー頻度が ゴルファーの健康や生活に及ぼす影響」

委託者： 公益社団法人日本パブリックゴルフ協会
受託者： 学校法人静岡理工科大学 准教授 富田寿人

はじめに

公益社団法人日本パブリックゴルフ協会は、生涯スポーツであるゴルフの普及振興を目的とし、国民の健康保持増進、余暇活動の充実などに寄与するための事業を展開している。最大の事業は競技会の開催で、アマチュアゴルファーに数多くのプレー機会を提供している。スクラッチ競技、アンダーハンディ競技に年間約4万人が参加する中、平成21年度より、シニア層の健康の保持増進に寄与すべく、新規競技「PGSドリーム・エイジゴルフ大会」を立ち上げた。これは、「ゴルフで歩いて健康に」をコンセプトに65歳以上の男女を対象に開催している大会で、年齢にラウンド中の歩数に応じたハンディを加算した独自のハンディキャップ（PGSドリーム・エイジハンディキャップ）を採用するなど、ゴルフと健康の保持増進を結びつけたユニークな競技である。

中高年者は生活習慣病やメタボリック・シンドロームへの罹患率が高まる懸念があることから、健康に対する意識が高いと言われている。そんな中高年者に支持されるゴルフが、運動量の豊富なスポーツであることは、平成18年に厚生労働省が発表した「健康づくりのための運動指針 2006～生活習慣病予防のために～」で示されている。この中で、身体活動量の目標として“週に※23エクササイズの活発な身体活動を、その内4エクササイズは活発な運動”を推奨しており、これを歩数に換算すると1日1万歩が目標値であることが具体的に示された。また、同指針でゴルフは速歩、自転車と並ぶ活発な運動（※4メッツ）に分類されており、ゴルフ場で1ラウンドを4時間でプレーした場合、待ち時間やカート使用時間を除いた実質運動時間を2時間と想定すると、4メッツ×2時間＝8エクササイズの身体活動量があると算定されている。これは、相当に大きな値で、ゴルフの運動量の豊富さを再確認するとともに、定期的にゴルフをプレーすることで、生活習慣病の改善に大きな効果をもたらすことが期待できる数値である。

こうした観点から、ゴルフと健康には密接な関係があるとの考えに基づき「PGSドリーム・エイジゴルフ大会」を新設したが、これまでゴルフと健康に関する調査・研究が少なかったことから、今回、ゴルフが健康に与える具体的な効果を立証すべく、静岡理工科大学・富田准教授に調査を依頼した。

※メッツは運動強度の単位。エクササイズは、運動強度（メッツ）×時間で算出する。

公益社団法人日本パブリックゴルフ協会

生涯スポーツと言われるゴルフの普及振興を事業目的に掲げ、国民の健康の保持増進、余暇活動の充実等、豊かな国民生活の実現への寄与を目的に、1962年（昭和37年）に「関東パブリックゴルフ協会」として創立。1964年（昭和39年）には全日本組織化し、「日本パブリックゴルフ協会」に改称した。1994年（平成6）に社団法人格を取得し（主務官庁：通商産業省）「（社）日本パブリックゴルフ場事業協会」に団体名を変更。2010年（平成22年）3月には内閣府よりスポーツ団体第1号として公益社団法人の認定を受け、同年4月に元の「日本パブリックゴルフ協会」に復帰改称した。

公益目的事業の柱はアマチュアゴルファーを対象とした競技会の開催。日本最大級のアマチュアゴルファーの祭典「パブリック選手権」をはじめ、「パブリックミッドアマ選手権」、「シニアパブリック選手権」には毎年約2万人が参加。アンダーハンディ競技とあわせると、約4万人がPGS主催競技に参加している。

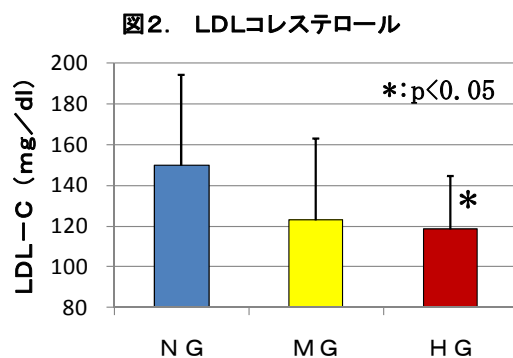
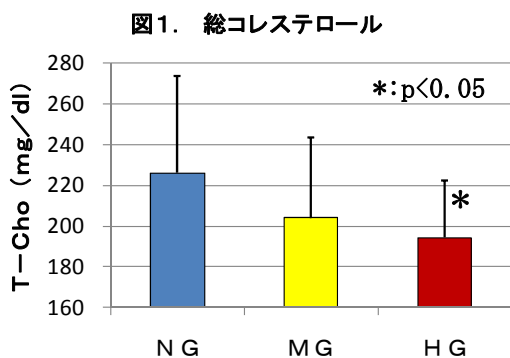
ゴルフのプレー頻度がゴルファーの健康や生活に及ぼす影響（結論）

静岡理工科大学 富田寿人

中高年男性に人気の高いゴルフですが、ゴルフを一生懸命にプレーすると健康にどんな効果があるのかを証明した研究は非常に少ないのが現状です。そこで、本調査の目的は、中高年者の体脂肪や血液検査項目そして日常生活の身体活動量や健康意識にゴルフのプレー頻度がどんな効果を及ぼしているのかを調査することでした。

対象者は愛知県内のパブリックゴルフ場（名古屋広幡ゴルフコース、森林公園ゴルフ場、名古屋港ゴルフ倶楽部）の会員となっている中高年男性64名と静岡県袋井市内に在住する中高年男性12名、合計76名でした。彼らの平均年齢は68.4歳、平均身長166.6cm、平均体重64.2kg、平均腹囲82.3cmでした。この76名をゴルフのプレー頻度で3つのグループに分けました。①ゴルフのプレー習慣の無いグループ（15名：NGグループ）、②ゴルフ・ラウンドを月に3回までしかプレーしないグループ（26名：MGグループ）そして③ゴルフ・ラウンドを月に4回以上行うグループ（35名：HGグループ）です。

その結果、身長、体重、体脂肪量、筋肉量などの体格にはグループの間に差がないことがわかりました。しかし、グラフのように総コレステロールは、NGグループの平均値226.1mg/dlに対してMGグループ204.2mg/dl、HGグループ194.4mg/dlとゴルフをよくしている人達の方が低くなりました。また、LD



Lコレステロール（悪玉コレステロール）も、NGグループの平均値が149.7mg/dlに対してHGグループは118.5mg/dlと低い値になりました。さらに、中性脂肪（トリグリセリド）でも同じような結果が得られました。

つまりこの結果は、高頻度でゴルフをプレーしている人達は血液中の脂質が良い値を示しており、動脈硬化を引き起こしにくく、ひいては脳血管疾患や心

疾患になりにくいことを示しています。

また、全員の1週間の身体活動量を測定し、1日あたりの活動量にして比較してみると、1日の歩数は平均でNGグループ 7703 歩に対して、MGグループ 9582 歩、HGグループ 9099 歩と高い数値でした。年齢的なことを考えても、ゴルフをする人達が日頃からよく歩いていることがわかりました。また、歩数が多いためか、1日の運動量や活動時間も同じような結果を示しています。

	運動量	総消費量	歩行数	活動時間	歩行運動	速歩運動
	kcal	kcal	歩/日	分	分	分
NG	201	1828	7703	81	61	19
MG	264	1866	9582	98	68	29
HG	237	1848	9099	95	68	26

なかでも注目したいのは、1日あたりの速歩運動の時間です。MG、HGグループの人達は1日の中で速歩きに相当するような運動を30分弱していることがわかったのです。つまり、ゴルフをよくする人達は毎日たくさん歩くだけでなく、速足で歩いているか、それに相当する強めの運動をしているということです。その結果、1週間の運動量は相当な量に達するため、内臓脂肪を確実に減少させ、メタボリック・シンドロームの予防・改善ができると思われます。さらに、このような運動の強さは心臓や肺に適度な刺激を与えるため、健康づくりにも最適と言えるでしょう。

本調査から、ゴルフを習慣的に行う中高年の方々は、健康意識が高く、日常の生活の中でも1日一万歩を概ね達成しており、週あたりの運動量も高いレベルにあることが明らかとなりました。これは、ゴルフをプレーしていることが引き金となって、日常の生活改善や健康意識の改革が行われているためと思われます。

また、ゴルフをよくプレーする人達の総コレステロールやLDLコレステロールの値は、ゴルフ習慣を持たない人達に比べ明らかに低い値を示したことから、ゴルフ習慣を持つことは、動脈硬化を予防し、脳血管疾患や心疾患の発症率を低下させることに有効であると思われます。

さらにこの効果を高めるためには、健康的な生活をしていることを基本として、ラウンドする時はカートに乗らず歩いてプレーすることが大切です。これによって、メタボリック・シンドロームや生活習慣病の予防・改善、そして体力低下の予防・改善ができると考えます。



公益社団法人日本パブリックゴルフ協会
平成22年度 調査・研究事業報告書

「ゴルフのプレー頻度が
ゴルファーの健康や生活に及ぼす影響」
(詳細報告)

委託者： 公益社団法人日本パブリックゴルフ協会
受託者： 学校法人静岡理工科大学 准教授 富田寿人

目的

本調査はゴルフのプレー頻度が異なる 60 歳以上の被験者を対象に、血液検査、日々の身体活動量、身体組成等を調査し、ゴルフが健康の保持増進に結びつく効果を明らかにすることが目的である。

被験者の選定

被験者は 60 歳以上とし、日頃からゴルフ習慣がある男性 64 名と運動習慣が無い男性 12 名の合計 76 名を選定した。

調査方法

1. グルーピング

被験者 76 名を 3 グループに分け、各調査から得たグループごとの平均データを比較・分析した。グルーピングの条件は、ゴルフ習慣が無い NG グループ (Non Golfer)、ゴルフを月に 3 回までプレーする MG グループ (Middle Frequency Golfer)、ゴルフを月に 4 回以上プレーする、またはラウンドは月に 2~3 回であるが練習場に月 10 回以上通う HG グループ (High Frequency Golfer) とした。

2. 調査項目

(1) 血液検査

(2) 身体活動量測定

株式会社スズケンの生活習慣記録機「ライフコーダ」を被験者の腰に装着し、1 週間の身体活動量を測定した。

「ライフコーダ」とは、毎日の歩数や運動強度等をより正確に捉えられる生活習慣記録機であり、一般的には歩数計と認知されやすい機器であるが、医療業界では糖尿病患者等を対象に医師が活用する活動量計である。

(3) 身体計測

被験者の身長、体重、胸囲、体脂肪率等を計測。

(4) アンケート調査

主に健康意識とゴルフ頻度について調査。

3. 統計処理

アンケート以外の測定値については、平均および標準偏差を求め、グループ間の平均値の差の検定については、t-検定を用いて有意性を判定した。有意水準は危険率 5% 以下 ($p < 0.05$) とした。アンケート調査については、回答数と回答率を求めた。

結果および考察

1. 血液検査結果

表1. の総コレステロール、LDL コレステロール、中性脂肪は血液中の脂質量を示す項目であり、特に LDL コレステロールや中性脂肪が基準値を上回る状態が続くと動脈硬化が促進され、脳卒中や心筋梗塞などを引き起こす危険因子と言われている。

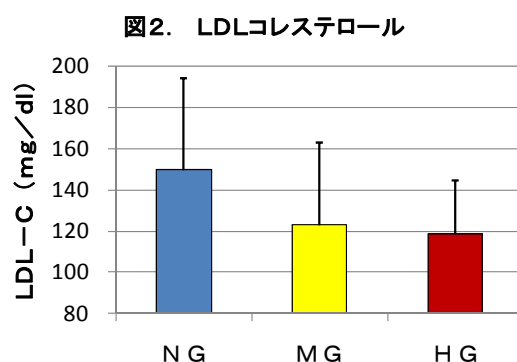
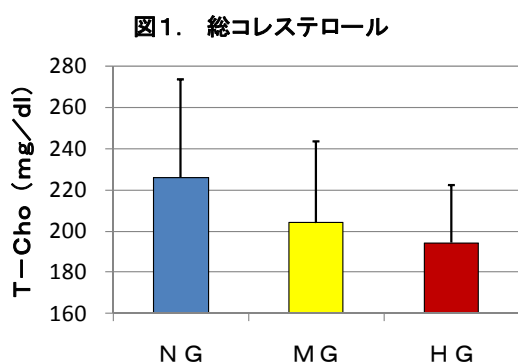
基準値 120~220mg/dl の総コレステロールにおいては、ゴルフ習慣が無いNGグループは平均値 226.1mg/dl を示したのに対して、ゴルフ習慣がある他2グループはMGグループが 204.2mg/dl、HGグループが 194.4mg/dl と共に基準範囲の数値であった。

また、悪玉コレステロールと呼ばれる LDL コレステロールや中性脂肪の値も同様に、ゴルフ頻度が高いグループほど低い数値を示す結果となった。

この結果から、高頻度でゴルフをプレーすると血中脂質が改善され、動脈硬化を引き起こしにくいと予測できる。従って習慣的にゴルフをプレーすると、脳血管疾患や心疾患の予防に効果的だと考えられる。

表1. グループごとの血液生化学検査結果(平均値)

	総コレステロール mg/dl	LDLコレステロール mg/dl	中性脂肪 mg/dl
NG	226.1	149.7	135.7
MG	204.2	123.0	124.7
HG	194.4	118.5	106.9



2. 身体活動量の調査結果

1日の平均歩数はNGグループが7,703歩に対してMGグループは9,582歩、HGグループは9,099歩と、ゴルフ習慣がある2グループは厚生労働省が示した1日1万歩の目標値に近い数値を示した。

澁谷ら¹⁾は老人福祉センターに通う人を対象に1日の歩数を調査したところ、70歳以上では男性8,075歩、女性7,902歩であると発表した。また、平成9年の国民栄養

調査²⁾では、成人男性で8,202歩、女性で7,282歩（70歳以上では男性5,436歩、女性4,606歩）が日本人の歩行の現状であり、1日1万歩以上を達成している割合は成人男性で29.2%、女性で21.8%であると報告した。一方、2000年に策定された“健康日本21”³⁾では、国民の生活習慣病の予防および健康づくりを推進するため、日本における歩行の現状を踏まえて国民の1日の歩数を1,000歩から1,300歩増やすことを目標に掲げた。

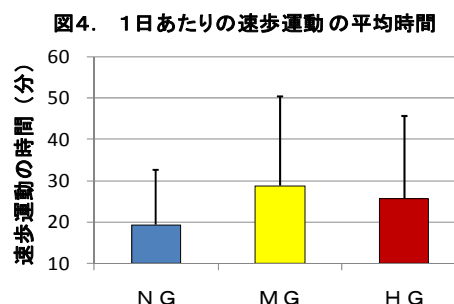
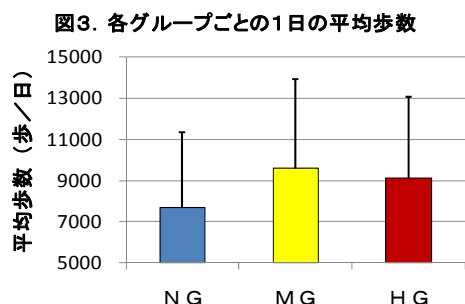
以上の報告を踏まえると、1日に約9,000歩から9,500歩を達成しているMGグループ及びHGグループの被験者は、この目標値を達成しており、適度な歩行運動を日常的に行っていることが分かる。

表2. グループごとの身体活動量(平均値)

	歩数	運動量	歩行運動	速歩運動
	歩/日	Kcal/日	分/日	分/日
NG	7,703	201	60.9	19.3
MG	9,582	264	68.0	28.8
HG	9,099	237	67.9	25.8

表2. で注目したのは、1日あたりの速歩運動の時間である。MGグループ及びHGグループは、ゴルフ習慣が無いNGグループより速歩運動/日の時間が長く、1日で30分弱、つまり週に約3時間は4メッツ相当の運動強度があると言われる速歩運動を行っていた。これは4(メッツ)×3(時間)の計算で週12エクササイズの活発な運動をしており、“健康づくりのための運動指針2006”⁴⁾が示す「週に4エクササイズは活発な運動を！」の3倍に相当する運動量だ。

また、運動指針の中では内臓脂肪を減少させるためには、週に10エクササイズ程度かそれ以上の運動量が必要であり、この運動量を維持すると食事の量が一定であれば月に1%から2%程度の内臓脂肪を減らすことができると報告した。さらに4メッツ以上の高い運動強度を維持すると呼吸循環系に適度な刺激を与え、健康づくりに非常に重要であると考えられている。



3. 身体計測結果とメタボリック・シンドローム診断基準

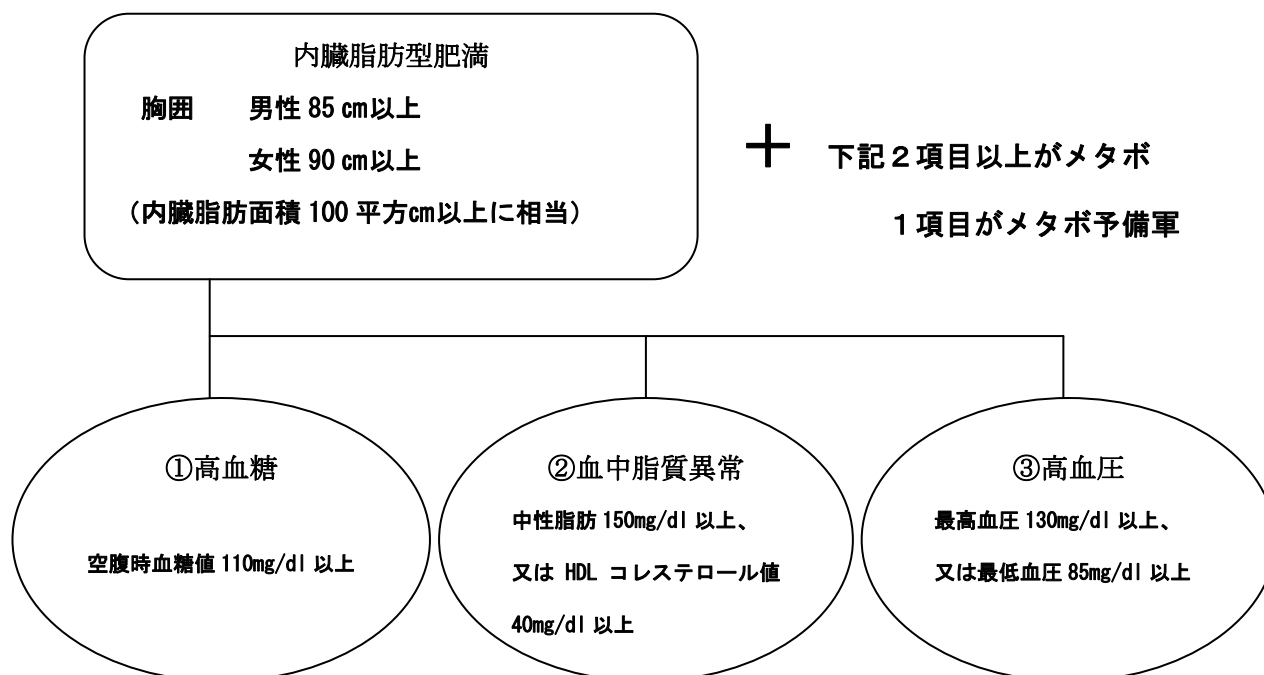
表3. の通り、肥満度を示すと言われている腹囲、体脂肪率、脂肪量及びBMI^{注1)}は、各グループとも年齢的に判断して標準の範囲にあり、グループ間に有意な差は示されなかった。

表3. グループごとの身体計測結果(平均値)

	年齢	身長	体重	腹囲	体脂肪率	脂肪量	BMI
	歳	cm	kg	cm	%	kg	
NG	67.1	167.9	65.0	81.6	21.0	13.8	23.1
MG	68.9	166.1	64.0	82.0	19.9	12.8	23.2
HG	68.7	166.3	63.9	82.8	19.3	12.6	23.2

メタボリック・シンドロームの診断基準は胸囲が男性 85 cm以上、女性 90 cm以上に該当し、加えて①高血糖（空腹時血糖値 110mg/dl 以上）、②血中脂質異常（中性脂肪 150mg/dl 以上またはHDL コレステロール値 40mg/dl 以上）、③高血圧（最高血圧 130mg/dl 以上または最低血圧 85mg/dl 以上）の①～③のうち、2項目以上に該当する場合にメタボリック・シンドロームと診断され、1項目に該当する場合はメタボ予備軍に分類される。

【メタボリック・シンドローム診断基準】



注1) Body Mass Index の略で、肥満度を表す指数。体重(kg)÷(身長(m)×身長(m))で求められ、日本肥満学会では 22 を標準、25 以上を肥満としている。

4. アンケート調査結果

一般的にはメタボ対策として、運動のみで体重を落とすよりも食事制限も併せて取り組んだほうが、体重の減少がしやすく内臓脂肪の減少にも繋がると言われている。

表4. の健康作りに関する意識調査を実施すると、NGグループの「食生活に注意する」47%に対してHGグループは同66%を示し、「運動をする」の項目ではゴルフ習慣があるMGグループ、HGグループは共に60%以上の回答率だがNGグループは27%であった。

さらに表5. の「普段の生活から身体をよく動かすか」では、ゴルフ頻度が高いHGグループほど「動かす」、「どちらかといえば動かす」と回答した被験者が多い（回答率82%）という結果を得た。（NGグループ46%、MGグループ62%）

	複数回答可		
	NG	MG	HG
食生活に注意する	47%	50%	66%
運動をする	27%	65%	60%
休養をとる	33%	38%	37%
気分転換する	27%	27%	20%
特になし	13%	12%	6%
無回答	20%	12%	9%

	NG	MG	HG
動かす	46%	62%	82%
どちらかといえば動かす			
どちらともいえない	20%	19%	20%
どちらかといえば動かさない	27%	12%	6%
動かさない			
無回答	7%	8%	3%

ゴルフ習慣があるMGグループ、HGグループは身体を動かすために普段からゴルフ練習場に通う人も多く、表6. と表7. の通りHGグループでは、ほぼ毎日練習場へ通う被験者（30回/月）がいれば、練習場で600球/日を打ち込むと回答した人もいた。

表6. 1ヶ月の練習回数				表7. 練習場での平均打数		
MG		HG		打数(球)	MG	HG
回数	回答率	回数	回答率			
0~3回	70%	0~3回	29%	100以内	19%	6%
4~5回	19%	4~5回	12%	101~200	12%	41%
無回答	12%	6~9回	23%	201~300	23%	15%
		10~19回	21%	301~400	8%	14%
		20~29回	11%	401~500	0%	3%
		30回以上	3%	501~600	0%	3%
		無回答	1%	無回答	38%	19%

北川ら⁵⁾は、スイング動作による消費カロリーをドライバーでの1スイングにつき1.19kcal、5番アイアンでは同1.11kcalであると報告している。また、健康づくりの運動指針2006では、1ヶ月で1cmの腹囲を減少させるためには、1日当たり約230kcalが必要であると発表した。

これらのデータを踏まえると、練習場で200スイングした場合、約200kcal強のエネルギー量を消費したと言えるため、ゴルフ場でのプレーだけでなく、練習場でも十分な運動を図れるゴルフはメタボ対策に最適なスポーツの1つだと考えられる。

5. PGS ドリーム・エイジゴルフ大会

表8. 平成21年度PGSドリーム・エイジゴルフ大会 開催実績

地区	開催コース	開催日	参加人数 (名)	平均歩数(歩)	最多歩数(歩)
東日本	紫カントリークラブ あやめコース	4月1日	40	14,947	19,503
	八千代ゴルフクラブ	4月30日	52	16,357	20,250
	千葉よみうりカントリークラブ	5月7日	132	13,620	24,686
	那須野ヶ原カントリークラブ	5月31日	17	14,927	18,731
	セントレジャーゴルフクラブ市原	6月18日	49	—	20,237
	新潟サンライズゴルフコース	7月2日	25	14,495	19,387
	津軽高原ゴルフ場	7月14日	9	13,723	15,796
	丘の公園清里ゴルフコース	7月16日	24	—	18,953
	千葉よみうりカントリークラブ(団体戦)	9月15日	69	13,694	23,063
	千葉よみうりカントリークラブ	10月27日	73	15,702	23,150
中部日本	名古屋港ゴルフ倶楽部(富浜コース)	4月24日	45	14,788	18,812
	アリジカントリークラブ 花垣コース	6月2日	22	13,594	17,239
	名古屋広幡ゴルフコース	6月15日	33	14,004	18,437
	グランシエロゴルフ倶楽部	6月19日	17	14,297	18,634
	小杉カントリークラブ	9月14日	32	14,783	20,369
	正眼寺カントリークラブ	9月15日	46	—	16,662
	森林公園ゴルフ場	9月24日	22	14,947	19,397
	森林公園ゴルフ場	10月20日	53	15,698	20,789
西日本	グランドオークプレイヤーズコース	4月27日	39	13,552	23,573
	北神戸ゴルフ場	5月1日	20	17,590	24,122
	よみうりゴルフ ウエストコース	5月8日	65	14,732	21,744
	京阪ゴルフ倶楽部	5月20日	67	11,903	14,312
	奥津ゴルフ倶楽部	5月27日	8	13,021	17,302
	西神戸ゴルフ場	5月29日	16	15,651	17,505
	マーメイド福山ゴルフクラブ	6月2日	18	—	13,668
	大阪パブリックゴルフ場	6月29日	42	11,327	16,775
	青野運動公苑アオノゴルフコース	7月1日	41	—	18,069
	青野運動公苑アオノゴルフコース	9月2日	15	11,611	15,038
	西宮北ゴルフコース	9月2日	20	—	19,147
	グランドオークプレイヤーズコース	9月14日	21	11,785	15,436
	水島ゴルフリンクス	9月21日	8	13,033	16,374
	グランドオークプレイヤーズコース	11月10日	55	15,233	22,297
	計	1195	(平均)14,192歩		

表9. 平成22年度PGSドリーム・エイジゴルフ大会 開催実績

地区	開催コース	開催日	参加人数 (名)	平均歩数(歩)	最多歩数(歩)
東日本	八千代ゴルフクラブ	4月28日	21	18,276	21,978
	千葉よみうりカントリークラブ(Aクラス)	5月11日	41	13,832	20,465
	同 (Bクラス)		82	13,727	22,236
	篠ノ井ゴルフパーク:ウィーゴ	5月27日	12	13,847	17,297
	紫カントリークラブ あやめコース	6月1日	15	—	17,314
	セントレジャーゴルフクラブ市原	6月15日	27	11,101	16,613
	古河ゴルフリンクス	6月17日	17	—	20,170
	津軽高原ゴルフ場	7月20日	14	13,145	17,837
	千葉よみうりカントリークラブ(団体戦)	9月14日	51	14,553	24,052
	八千代ゴルフクラブ	10月28日	44	17,420	22,447
中部日本	名古屋港ゴルフ倶楽部(富浜コース)	4月27日	24	17,320	20,875
	グランシエロゴルフ倶楽部	5月14日	12	13,742	18,206
	アリジカントリークラブ 花垣コース	6月2日	8	—	16,266
	名古屋広幡ゴルフコース	6月17日	28	16,082	21,698
	小杉カントリークラブ	9月13日	9	14,824	19,917
	正眼寺カントリークラブ	9月14日	24	14,865	17,454
	森林公園ゴルフ場	9月29日	9	14,178	18,709
	名古屋広幡ゴルフコース	10月29日	25	18,022	19,782
	西日本	宜野座カントリークラブ	4月23日	22	10,756
よみうりゴルフ ウェストコース		5月14日	37	15,677	23,608
マーメイド福山ゴルフクラブ		6月1日	13	10,908	14,579
西神戸ゴルフ場		6月3日	26	14,403	18,787
コート・ベール徳島ゴルフクラブ		6月7日	23	13,369	20,728
青野運動公苑アオノゴルフコース		7月7日	12	11,804	14,962
北神戸ゴルフ場		9月7日	11	18,965	23,870
北神戸ゴルフ場		11月12日	30	18,466	24,647
		計	637	(平均)14,751	

ゴルフ場での1ラウンドに要する歩数について、平松ら⁶⁾は平均13,000歩から15,000歩、北井ら⁷⁾は約14,000歩から18,000歩と報告した。参加者の年齢と歩数によってハンディキャップが決まる「PGSドリーム・エイジゴルフ大会」でも表8.と表9.の通り、過去2年の開催実績では平均14,000歩以上を記録し、ゴルフ場でラウンドする際の歩数は約15,000歩前後で、ほぼ一致した。

この平均歩数で速歩を継続した場合、時間にして1時間30分以上をかけないと達成できない数値であり、体格によって異なるものの少なく見積もっても500kcalの消費カロリーに相当するものと思われる。そこにスイング動作、コースのアップダウン等の要素を加えた消費カロリーは1ラウンドで700~800kcalほどあるものと推測される。

この消費カロリーは、成人男性が2時間程度の軽めのジョギングを行った場合に相当するものであり、歩いてラウンドすることの有効性を裏付けるデータである。

まとめ

アンケート結果並びに身体活動量調査では、ゴルフを習慣的に行う中高年者、その中でも特に高頻度でゴルフ場にてラウンドし、定期的に練習を行っている人達は食習慣の改善や運動実施などの健康意識が高く、さらに日常の生活の中でも1日1万歩を概ね達成しているため、週あたりの活発な運動量も高いレベルにあることが明らかとなった。

一方の血液検査では、ゴルフを高頻度で行う人達の総コレステロールやLDLコレステロールの値は、ゴルフ習慣を持たない人達に比べ有意に低い値を示した。従って、ゴルフ習慣を持つことは動脈硬化を予防し、脳血管疾患や心疾患の発症率を低下させることに有効であることが推察される。

健康的な生活をしていることを基本とした場合、ゴルフを習慣的に楽しむこと、並びにラウンドする時はカートに乗らず歩いてプレーすることは、呼吸循環系に適切な運動刺激を与え、消費カロリーを増大させることができ、メタボリック・シンドロームや生活習慣病の予防・改善に効果的だと考えられる。

引用文献

- 1) 澁谷孝裕. 地域高齢者の健康づくりにおける1日平均歩数の有用性について. 日本老年医学会雑誌 44(6): 726-733 (2007)
- 2) 厚生労働省. 平成9年国民栄養調査 (1997)
- 3) 厚生労働省. 健康日本21 (2000)
- 4) 厚生労働省. 健康づくりのための運動指針2006～生活習慣病予防のために. (2006)
- 5) 北川薫ら. ゴルフのエネルギー消費量. ゴルフの科学 8-1:p1-5 (1995)
- 6) 平松携ら. ゴルフ・ラウンドスコアの歩行に関する研究. ゴルフの科学 5-2:p27-31 (1992)
- 7) 北井和利ら. ゴルフラウンドのスコアと歩数の関係. ゴルフの科学 6-1:p27-30 (1992)